

「矢祭子ども司書第二期生」の君たちへ

矢祭町は、東北地方の小さな町です。

しかし、山や川など自然環境に恵まれた町です。緑豊かな地方で育つことは、賑やかで騒がしい大都会で育つより、子どもの心の発達には、ずっとよいのです。

私も、栃木県の小さな町で育ちました。今、振り返ってみると、レジャーランドもテレビもおもちゃもない、静かでゆったりと時間の流れる田舎で生まれ育ってよかったと思うのです。

何もないから、本を読むことに楽しみを見つけました。母の仕事の手伝いをしていて一ヶ月に一冊の本を買える小遣いをもらいました。そのお金を持って本屋さんに行き、本を選ぶことがどんなに楽しかったことか、今でもよく覚えています。小学生時代に本が好きになり、よく本を読んだことがどれだけ自分の心の成長に役立ったかわからないほどです。

君たちは、自分から進んで図書館の司書のことを学ぼうとしたのですね。すばらしいことです。司書の役割を学ぶこと。本の世界の奥深さや広さを学び、一層本に対する興味を強くするでしょう。

その学びは、きつと君たち一人一人の人生の「心の財産」になると思います。君たちのこれからの一年間の成長が楽しみです。がんばってください。

平成22年5月15日

「矢祭読書のまちづくり」応援団長

ノンフィクション作家

柳田邦男